

令和元年五月一日発行（毎月一回一日）  
書象 第六十七卷 第五号 通巻七六二号

# 書 系



私たちが「日本の書道文化の  
ゴネス「書形文化遺産登録」を  
応援しています。」

日本書道芸術協会

2019-  
**5**

## 卷頭言

### 第36回読売書法展に出品しよう

副理事長 山口啓山

先日、「顔真卿展」が東京国立博物館で開催され、大盛況のうちに幕を閉じました。会場で見た古典の優雅さは、古人のすぐれた心の姿に他なりません。あの限りなく美しい造形の源泉、感情の雄叫びともとれる氣韻生動する線質。無数の古名跡が星のごとく燐然と輝いて鑑賞者を魅了し、忘れる事のできない感動を与えてくれました。私も日々の書活動を省みて、一步一步絶え間なくあゆみ続けることの大切さを痛感させられました。



1984年スペイン（バルセロナ）書道展  
上條先生による特別揮毫

さて、四月の半ばとなり読売書法展への挑戦の時期がやってきました。書象会の書は“信山流”と呼ばれ、その作風は精神性の高さと凛とした格調で、書壇に広く知れわたっています。展覧会に出品することは結果も気にはなりますが、各自の書の向上において欠かすことができません。大勢の人に鑑賞されるので自ずから一生懸命に取り組みますし、限られた期間で作品を仕上げるため、必然的に集中せざるを得ないからです。確かな目的を持って臨むわけですから、書全般の知識も出品前とは驚くほど異なってきます。

書象会の皆さん！初心者、中堅やベテランの方々、どなたでもかまいません。日々の練習の成果を一步進めるために、またご自分の書の領域を更に拡げるためにも奮って出品しましょう。高校生の皆さんも是非挑戦して下さい。会では若手育成を目的として、本年度から高校生の各展覧会への参加に際し、出品にかかる費用負担を軽減していくことといたしました。（詳細は、出品要項参照）

また、今年度は昨年の読売書法展の出品点数を上回る出品を目指していきたいと思っています。会員の皆さん、本部員一丸となって皆さんの挑戦を応援していきます。ぜひ格調高い“信山流”を、読売書法展の会場に増やしていきましょう。



心外無別法

5月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

・文字の中心を把握して書く。

寺：たて画の位置注意。

伏：右はらいをのびやかに。

膺：「隹」と「月」の大きさがポイント。



釋：偏と旁の位置注意。



典：きゅうくつなところがないように。

釋  
寺  
伏  
膺  
典  
風

風

風：「𠂔」の中がせまくならないように。

高：横画の方向は右上  
りに統一し、縦画  
は背勢を意識して  
書く。



邁：文字の中心に氣を

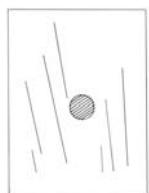
つける。文字の中  
の空間が狭くなら  
ないようにする。  
シンニョウの払い  
は鋭くのびやかに。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書

・全体構成は左図参照。



・前半は行間を詰め、  
後半は行の高さや間  
隔に変化をつける。

・中央部の広い空間や  
四行目の墨継ぎがア  
クセントになる。

「ぶ（布）れ」

「やお（於）の」



しのぶ（布）れどいろに（一）でに（二）け（介）りわが（可）こひ（日）は（八）  
も（毛）のやお（於）もふと人の（能）とふ（布）ま（万）で（氏）  
(平兼盛)

5月20日必着  
出品券を貼付

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書

四字連綿は次の和歌等への準備段階です。  
四つの連綿の位置にも注意をはらう。

「ゆか（可）む」  
「ゆ」の縦画を右に寄せて下に続ける。

ゆ  
む

ゆ  
む

ゆ  
む

「か（可）なしき」  
「し」を右に寄せる。

ゆ  
む

「いくた（多）び」  
「び」の終画を右へ出す。

ゆ  
む

「ほ（本）のか（可）  
に（一）」  
「か（可）に（一）を  
右寄りにつくる。」

ゆ  
む

ゆ  
む

ゆ  
む

ゆが（可）むか（可）なしき いくた（多）び ほ（本）のか（可）に（一）

研 究【研究】 「張猛龍碑」 臨書

篆文 (天) 浄く、千里開明なり。学 (建ち…)



虎井曉鐘先生書



杉山曉雲先生書



素心(集字)



今月のポイント 逆筆を強く当てる。字中の空間に留意したい。  
※どちらか一体を出品してください。

5月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します



雨洗つて青山淨し（姚合詩句）

条幅隨意【条隨】

中村巍山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



青はこれを藍より取りて藍よりも青し

「出藍の誉れ」（出典「荀子」）

- ・ひらがなが漢字に負けないよう太めに書く。
- ・「青藍藍青」はP14参照。

卷豆物場

中学一年規定  
〔学毛〕

杉山曉雲先生書

草花色い

中学二・三年規定  
〔学毛〕

中村龜山先生書

也元子

小学五年規定【學毛】

竹内墨洋先生書

右也榮

小学六年規定【學毛】

荻田光山先生書

おはよう

小学三年規定【学毛】

鈴木草影先生書

日暮五月

小学四年規定【学毛】

山口啓山 先生書

小学一年規定 【学毛】

畠中高山先生書



小学二年規定 【学毛】

小室墨汀先生書



## 硬筆規定

およそ人間を救済するものが(可)三つ程、一つは芸術であり一つは宗教と云えるであろう。

一般規定【二硬】(師範・準師範・段位)

上條信山先生書

あらう人間を救済すもの、三つ程

一つは宗教と云ふもあらう。

一つは文学であり、一つは芸術であり

一般規定【二硬】(級位)

藤岡月華先生書

佐名作品は、筆の進む方向と圧と弾力により、かも一出で、見る限りが魅力である。

中学規定【学硬】

虎井暁鐘先生書

心がこもった言葉には、深い悲しみにいる人の心を動かす

不思議な力がある。氏名



中学二・三年

〔黄〕は四画目を最大幅にする。下部の画間を等しく。「色」は最終画の方向長さに注意。「い」は漢字より小さく。「草」は八画目を強調して均衡を保つ。「花」は左払いの方向、長さを意識する。



中学一年

「登」は冠を最大幅にする。「口」の縦画は内に向かう。「場」は偏を縦長に、左払いの方向、画間にも留意する。「人」は一、二画の接する位置を意識する。「物」の偏は右端をそろえる。

## 小・中学生随意課題【学隨】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。  
出品券を貼付してください。

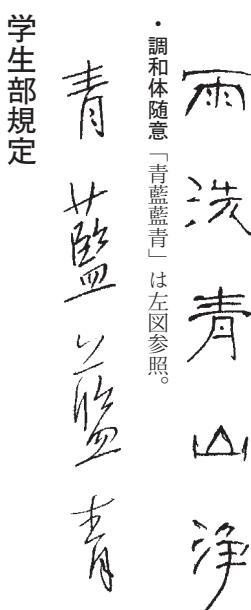
小 一・二年 学	山	五 小 一・二年 学
太陽		中 学
空		三 四年 学

### 手本解説

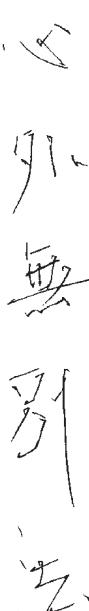
・基本 「心外無別法」は左図参照。



・隸書条幅規定 「雨洗青山淨」は左図参照。



・調和体隨意 「青藍藍青」は左図参照。



友達の家に遊びに行きました。  
た。古くて大きな柱時計が  
ありました。

名前  
支部 年 級段

小学三・四年規定【学硬】  
小渕石峯先生書

ひつそりとしづかな古池に  
かえるがとびこむ水の音  
が聞こえた。

名前  
支部 年 級段

小学一・二年規定【学硬】

き	の	土
ま	小	の
し	さ	中
た	な	か
.	め	ら
なまえ	が	、
支部	で	は
年	て	な
きゅう だん		

\*出品券を貼付して下さい。

一般(師範・準師範・段位)・一般(級位)・中学生は鉛筆使用のこと(中学生は鉛筆使用のこと)と(中学生は鉛筆も可)。小学生は鉛筆使用のこと。作品の大ささ→たて18cmよこ7cm 小一・二課題→2.1cm中のマス目紙を使用する。小三・四・五・六課題→2.1cm中の罫線を引く。



小学二年



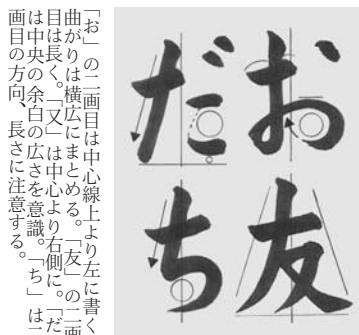
小学四年



小学六年



小学一年



小学三年



小学五年

「の」始筆は中心線上より書き始める。概形も意識する。「ど」は二画目の接する位置に注意する。「か」の二画目の長さ、方向に気をつける。

「お」の二画目は中心線上より左に書く。目字は長く。「又」は中心より右側に。余白の広さに注意する。「ち」は二画目の余白を意識する。「だ」は横長を意識する。

「元」は横画の長短に気をつける。「氣」の横画は等間隔にする。四画目は反り。「子」の縦画は軽く反らせる。余白の広さにも注意する。

古典研究シリーズ ④〔古典〕

書き方

◆「蘭亭叙」字説

間 一ノノノ門 十月。

猶 旁はフ十リ十三。

興 ハリハリハリハリ。

懷 旁下部の衣はノ衣。

期 左偏はサ+系。

盡 三幸+ハ十四。

死 了死死。

蘭亭叙 晋(三五三年)

今月のテーマ

写実的臨書  
細字(十五字以上)

①文字数を間違えないで出品して下さい。

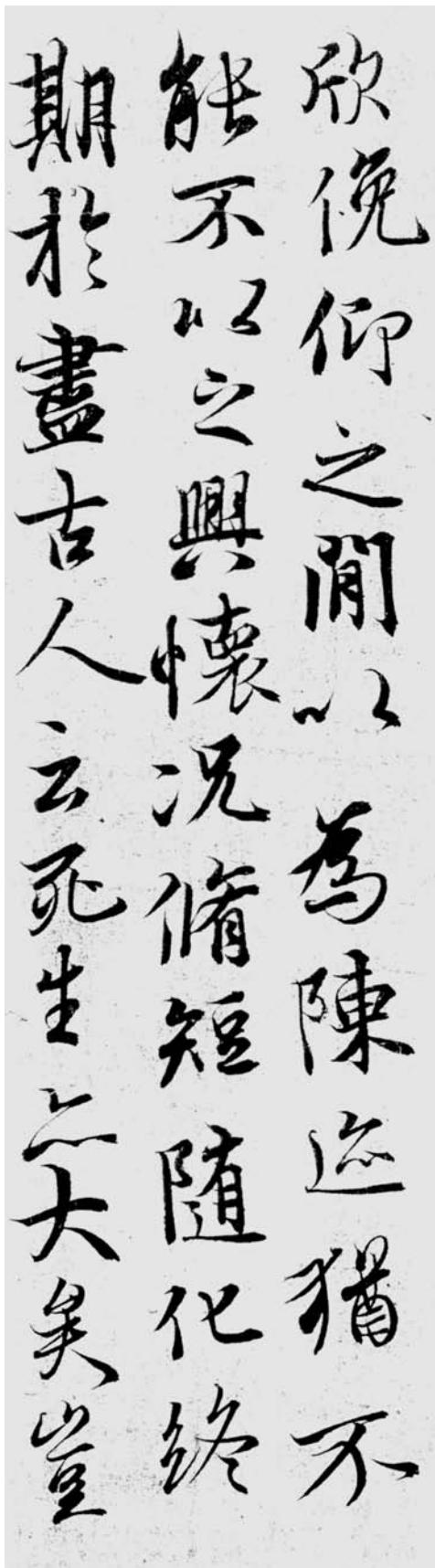
②続き文字でなくとも構いません。

③落款を入れて下さい。

④作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。

古典研究の出品券を貼付して下さい。

(編集部)



〔釈文〕欣。俛仰之間。以為陳迹。猶不能不以之興懷。況脩短隨化。終期於盡。古人云。死生亦大矣。豈

## 図録で見る “信山先生の書”

### 「上條信山近作展（一九六七年）」その3

⑨ 守清虛（昭和四十一年 第九回日展）

この作品のにじみに注目したい。字句の判読はできる。しかし、点画間の余白がにじみによって消えている。作品全体を見れば白黒の対比が美しい作品である。これほどのにじみの表現は書道史的にも例を見ない。信山先生は新しい書表現として、にじみの効果を意識して書かれている。

⑩ 篤敬（昭和四十二年 第十回日展）

大字隸書作品の初登場。典型的な隸書のスタイルで伸びやかに書かれている。しかし筆遣いを見ると、点や口部などは隸書ではなく信山バリの筆法である。古典を根拠とするが、表現は信山先生の精神で書かれている。

⑪ 無縫（昭和四十二年十一月頃）

「無縫」は先に述べた⑨と⑩の表現を入れて、速

⑨ 守清虛



⑩ 篤敬



⑪ 無縫



⑫ 有如無



⑬ 無為（昭和四十二年十一月頃）

さ、伸び、冴え、強さなど紙面に映し出され、加えて作家の気迫が光を発している。「無」字の横画は四本引かれている。見たことのない字である。書道字典を開いても、ほとんどの字典に掲載されていない。この「無」字を信山先生は木簡から見つけられた。その時の閃きと直感が名作を産み出したのであろう。次の二作の「無」にも注目したい。

⑭ 有如無（昭和四十二年十一月頃）

三字を接近させて、線を引きながら余白を造形することを楽しんでいるようである。

（理事長 市澤 静山）

# 第81回 謙慎書道会展

副会長 展覽会顧問 審査顧問 特別賞選考委員

田中節山



副理事長 展覽会總括 審査副主任 特別賞選考委員

市澤 静山



第一会場	東京都美術館
会期	3月17日（日）
	～23日（土）
第二会場	池袋サンシャインシティ
ワールドインボ	ートマート
会期	3月16日（土）
	～22日（金）

常任理事 展覽會總務 特別賞選考委員

內 藤 望 山



望山

常任理事 本年度審查員

山 口 啓 山

常任理事 本年度審查員

大澤 梢光



山口 啓山



常任理事 本年度審査員

大島皎山

常任理事 本年度審査員

高瀬霞山



常任理事 本年度審査員

小測石峯

常任理事 本年度審査員

竹内墨洋



常任理事 本年度審査員

関香風

常任理事 本年度審査員

藤澤珠玉



接州領名り人八島六具衛翁は御手に在りて製糸業と一其の長所と玉天の  
墨絵をもつてゐた。島津斉彬公を府守に承りてその風月堂主人へ  
推舉によりて召して鹿児島に來た時に安政元年癸未年正月廿二日翁は嘗  
て墨と紙と性別色至誠誠三拳じ焉公の御通と傳て薩摩の山草の良  
質は着取し之に薩摩の良木と搭配して善心所究盡に經美を創作したので  
今萬津家御用筆子同として代々翰林と家傳し六代目朝名屋の今日まで墨の幅狭の  
如傳が遺て水立から薩摩半島に渡り、伊祖からして此の筆を詠より 珠玉く

第81回謙慎書道会展

# 御長壽出品章

李太白詩 謙慎書道會

青山橫北郭白  
水遠東城此地  
一為別如蓬萬  
里征逕雲遊子  
意滿自故人  
情揮手自茲  
去蘭、班馬鳴

理事

横川景城 (95歳)



藤森大節

公募褒状

月日百代の過客にして行きがふ年もまた旅人なり舟の上に生涯を浮かべ馬の口とくへ老へを迎ふ者は日々旅に一々旅を極とす古くも多く旅に死せりあり

李太白詩

野に笑く花うよしに  
風に吹く小て  
野に笑く花うよしに  
人を更やかに一  
生る草木に僕達も  
生きて行けたら  
豪情ら

理事

松本小光 (90歳)

李太白詩恒靜

花宮仙楚盡微  
月隱高城鐘漏  
稀夜動霜林驚  
落葉晚聞天籟  
歲清秋蕭條  
已入寒空靜颯  
杳仍隨秋雨飛始  
覺浮生無住著  
頓有心地欲歸依

評議員

高見澤恒静 (90歳)

李太白詩 謙慎書道會

青山橫北郭白  
水遠東城此地  
一為別如蓬萬  
里征逕雲遊子  
意滿自故人  
情揮手自茲  
去蘭、班馬鳴

理事

横川景城 (95歳)

野に笑く花うよしに  
風に吹く小て  
野に笑く花うよしに  
人を更やかに一  
生る草木に僕達も  
生きて行けたら  
豪情ら

理事

松本小光 (90歳)

李太白詩恒靜

花宮仙楚盡微  
月隱高城鐘漏  
稀夜動霜林驚  
落葉晚聞天籟  
歲清秋蕭條  
已入寒空靜颯  
杳仍隨秋雨飛始  
覺浮生無住著  
頓有心地欲歸依

評議員

高見澤恒静 (90歳)

早川 静節 (93歳)

# 第八十一回謙慎書道会展入賞者発表

# 第八十一回謙慎書道会展入賞者発表

☆謙慎書道会展御長壽出品章

(数え歳90以上の出品者特別表彰)

(次頁へ続く)

横川  
景城

☆ U20出品者

(満17歳以上20歳以下の出品者)

役員出品

(○印は今年度審査員)

吉田	横川	山崎	宮寺	三沢	松田	布施	福山	日比野汀華	原田	秦	橋本	布下	中山	長田	中井	都竹	田中	武原	鈴木	白瀧
節城	景城	惜春	瑤光	泰仙	幼山	杠華	京江	柳泉	頼山	桂雪	真靜	香月	詠季	陽理	仙華	翠花	幽節	春虹	花照	静苑
横田	結城	森	宮崎	松本	古川	藤井	平岡	針原	林田	橋本	野口	成瀬	中堤	内	出来	塚原	田中	鈴木	菅野	
四葉	正憲	晨英	京楓	小光	琇光	憬花	想花	伯翠	翠山	幸楓	虹汀	惠苑	春里	真意	華泉	花瑤	紫花	草影	花仙	素杏
横田	余語	柳澤	宮田	美斎	津嶽心	益田	平川	原口	長谷川石心	納戸	錦織	中村	仲島	都所	塚本	田中	高瀬	鈴木	杉山	
小泉	元祥	雪葉	天遥	冠山	竹虹	華凜	日比野照悅	華煌	碧雲	明花	秀峰	秀華	秀峰	影花	皎沙	珠光	秀琴	香扇	登舟	

## 第81回謙慎書道会展

### 師を思い心をこめて

揮毫会期日 三月十七日(日)  
場所 東京都美術館 第一室  
宮本耕成先生

桜の開花間近の三月十七日、東京都美術館で開催された第八十一回謙慎書道会展にて、恒例の席上揮毫が行われました。各会派で現在活躍されている先生方七名が、午前と午後に分かれて揮毫されました。

書象会からは宮本先生が代表として、三尺×六尺に『敬神』の二字を書かれました。

大勢の見学者が会場を埋め尽くし、その中で作品に向かわれる宮本先生の眼差しは気迫に満ち、筆が一画目の点を打った瞬間、放射状に飛び散った墨、その後次々に生み出される線は美しく、力強さはまさしく信山バリでした。

揮毫後の宮本先生のお話では『敬神』とは「神を敬うこと」で、自分にとっての神という存在は上條信山先生ですとおっしゃり、気持ちを込めて信山バリで表現されたとのことでした。日頃作品を書かれる時となるべく同じ環境で書くために、普段使用している筆、墨を使い書かれたそうですが、下敷きが違ったのと、普段はパジャマ姿で書かれるそうで、今日は正装だから少し書きづらかったとおっしゃり、見学の皆さんを笑わせていました。

謙慎書道展は各会派に個性があり、毎年恒例の席上揮毫は、作品を書く上でとても勉強になります。



静かな会場に迫力の運筆が



印を押して完成

(桑島秀雪記)



書き上げた作品を鑑賞する来場者（右が宮本先生）

# 第44回埼玉書道三十人展

会期 三月五日(火)～三月十日(日)  
会場 埼玉県立近代美術館一般展示室Ⅰ

古今和歌集仮名序（一六三×九四）

市澤 静山

やまと歌はこの心を種とてよろ  
べの言ひの葉ふるそちへりけさせ  
の中あらん事業しげまさの  
ひねば心に思ふことを見よも聞  
くものとつづくまひがたせとなりも



摩持己長(千字文)(二二八×七一)

市澤 静山

前回の続きです。学年別漢字配当表の「雪」字は、縦画が出る字形を標準体としています。これは点画の接し方における“近道の原理”に基づいていると考えられます。

まず、点画の接し方が異なる「口」「田」を例にこの原理を確認しておきましょう。これらを行書体で示したもののが図1です。一方、「田」の一～三画目は一端上方へと戻るため、リズムが途切れます。近道の原理は連続する横画で働き、最終画は左右の縦画よりも上の位置で收まります。このように“近道”という自然で効率のよい書字のリズムが点画の接し方や漢字の字形に影響しているのです。

以上を踏まえて「田」の部分を考えてみましょう。縦画から戻るようにして次画へと移行するので「田」のパターンと同じように考えることが可能です。これが「雪」の標準形を考える根拠です。

繰り返しになりますが、縦が出ても横が出ても正誤の対象とはなりません。大切な事は書かれた結果としての字形よりも、書く過程にこそ書写教育の本質があるということです。なぜそのように書くのかという原理原則を考えることが本当に重要なことだと考えます。



図1 近道による点画の接し方

## 藤森博士の漢字表記にもの申す⑫

書道学博士 藤森大節

## 平成三十一年度 支部長講習会

平成三十一年度の支部長講習会を左記のとおり開催いたします。

今回は、「小学校低学年における水書用筆の指導」を取り上げ、各支部の指導に活かせる講習内容を企画しております。

二〇一七年告示の小学校新学習指導要領において、第一学年および第二学年において「水書用筆」を使用した運筆指導の推奨がその特性も含めて詳細に明示されました。今回は低学年における水書用筆を取り入れた具体的な指導について、用具用材の説明や特性、指導の具体について、児童が使用する実際の教材を使用し実技講習を行います。書象展会期中の国立新美術館研修室での開催ですので、お仲間お誘い合わせの上、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◆日時 六月十六日(日) 十三時三十分～十六時(予定)

受付

十三時より

途中十五分の休憩をはさみます

◆講師

田中 節山 先生  
荻田 光山 先生  
小室 墨汀 先生

◆内容

小学校低学年における水書用筆の指導(解説及び実技講習)

◆持参用具

筆記用具(鉛筆等)

◆会場

国立新美術館 三階 講堂

◆定員

八十名

◆申込み

書象会本部までお早めにお申込ください。

☎ 0422(53)9743

## 平成三十一年度 書道講習会「実用書講習会」

平成三十一年度の書道講習会を左記のとおり開催いたします。

今回は「実用書」についての実技講習を行います。「書は人なり」といわれています。社会生活では、書いた文字が多く人の目に触れ、書式や様式を学び、文字や表記を正確に書くこと、美しく書くこと、能率よく書くことは、現代生活にとって必要な技能です。社会生活の様々な場面で活用できる実用書の基本について解説ながらに講師による実技講習を企画いたします。普段、書家誌や通信条幅研究会で勉強されている会員の皆様には実用書の基本や応用が学べる良い機会となり必ずお役に立ちます。書象展会期中の国立新美術館研修室での開催ですので、お仲間お誘い合わせの上、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◆日時 六月十九日(水) 十三時～十六時

受付

十二時三十分より

途中十五分の休憩をはさみます

◆講師

市澤 静山 先生  
内藤 望山 先生  
藤森 大節 先生

◆内容

賞状の書き方・封書の書き方など、実用書の書式・様式の手本を準備し、生活の中で活かせる実用書の実技講習を行います。

※実技の手本や資料は会場で配布いたします。

◆持参用具

書道用具一式

新聞紙もご用意ください。

◆会場

国立新美術館 三階 研修室

◆会費

二千円

◆定員

五十名

◆申込み

書象会本部までお早めにお申込ください。

☎ 0422(53)9743

# 特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

## 好きこそ物の上手なれ



瑞祥支部 中二  
津秋帆希

今回、長年目標としていた特待生になることができてとてもうれしいです。小学三年生で習字を始め、中一の夏に引っ越しで場所を変えながらも楽しく続けられたのは先生のおかげです。更に上達できるようがんばります。

支部長先生より一言 通信で学び続けることは大変だけど、帆希さんなら大丈夫と確信していました。特待生合格おめでとう!!

## 感謝



伊奈支部 中二  
島田優人

僕は、硬筆と毛筆が特待生になりました。合格できたのは毎週送り迎えをしてくれたお母さんや優しく丁寧に教えてくれた先生に感謝をし、これから的生活に生かしていきたいと思います。

支部長先生より一言 「二冠達成おめでとう！」この結果、そして今までの努力は今後の人生において役に立つことだと思います。

## 努力と感謝



茅野支部 中三  
赤堀景澄

書道を始めて七年。この度、硬筆で特待生を頂くことができ、嬉しさと共に優しく丁寧に御指導下さった先生といつも支えてくれた家族には感謝の気持ちで一杯です。この先も更に上達していく様頑張ります。

支部長先生より一言 合格おめでとう。教室では物静かで作品に集中する景澄さん。これからも続けて頑張りましょう。

## 二冠達成



珠悠支部 中三  
玉井杏実

やっと二冠達成できました。これは小さい頃からの努力のあかしかなと思います。周りの人気が私を支えてくれたからここまでこれました。ありがとうございます。これからも頑張りたいと思います。最近は素晴らしい集中力で取り組んでいます。きっと受験や今後の生活に大いに活かされるものと期待しています。

支部長先生より一言 最近は素晴らしい集中力で取り組んでいます。きっと受験や今後の生活に大いに活かされるものと期待しています。

## めっちゃうれしい



芙蓉第二支部 中二  
鳥部智佳子

三年生から始めた習字。今回硬筆で特待生になることが出来ました。中学生になり塾や部活が忙しくいけないことがありました。が続けていて本当によかったです。めっちゃうれしいです。次は毛筆で特待生、頑張るぞ！」

支部長先生より一言 中学生になり部活や塾で思う様に練習が出来ないがとても頑張屋さんです。次の目標も頑張ろう。

## 成長



皓花支部 中三  
河合樹里

私は中学最後の試験だったので受かるかどうか不安だったけど目標にしていた特待生になることができた。これからはより良い字が書けるようにならねばと思っています。これからはより良い字が書けるようにならねばと思っています。

支部長先生より一言 短期間での毛筆特待生合格、素晴らしい。最近の上達ぶりに感心しています。樹里ちゃん、良かったね。

## 上を目指して



高社支部 中三  
小坂早希

毛筆に続き硬筆まで、特待生に合格することができます。とてもうれしく思っています。何度も落ちてしまつた毛筆にくらべ、一回で受けられてとてもうれしいです。先生、家族、友達、みんなありがとう！

支部長先生より一言 教室のリードオフマンです。下級生にもやさしく接して頼もしい茜さん、高校生になつても頑張れ。

私は小学二年生から始めた書道。苦手であった硬筆でも特待生となることが出来ました。指導して下さった先生、見守ってくれた両親には本当に感謝しています。これからも上を目指して頑張っていきたいと思います。

支部長先生より一言 部活動後の疲れた後もテスト前の不安な時も、にこやかにお稽古に来た早希ちゃん。とても立派でした。



今月の優秀品



△隸書条幅▽ 評 竹内 墨洋

浅井菖風 紙面に深く食いこんだ線  
が力強い。

上條賢山 線の強弱が強烈なインパ  
クトを表現する。  
造もすばらしい。

杉本統華 硬派な線で字間をしつか  
りと締めている。  
湯本香窓 線の強さが印象的。

村山麗恵 余白を生かし上品な隸書  
作品となつた。  
田村露苑 文字の骨格が確かに線の  
筆さばきが巧みで墨のにじみも美しい。

小野薫水 筆さばきが印象的。  
春日皓静 一画一画の正確な運筆に  
格調高さあり。

△条幅隨意▽ 評 荻田 光山

小林貞月 漢字、片仮名共に起筆が  
藤澤竹虹 力強く、線質大佳。

宿谷硯心 すべての文字の字形がよ  
く、明るい。  
和也見事。 線太を意識し、全体の調

△通信条幅▽ 評 大澤 梢光

小林鐘仙 墨量の豊かさ佳。運筆に  
迷いがない。  
永田智翠 のびやかな線でゆつたり  
とした構造が佳。  
平野壺桜 流麗で静かな流れの中に  
品よくまとまつた。





学生部

評 白瀧 静苑

山岸ふわり  
どの線も長く、伸びやかで、基本に忠実。

塚田紅愛  
線に力強さと明るさがあり、気分よし。

原田京佳  
墨を上手に使い、太く、力強く書けた。

今井水晶  
自然な筆使いで、肩に力が入っていない。

菊池愛花  
字形、線質共によく、四字の調和も見事。

福山百馨  
始筆から終筆まで力強く、すばらしい作。

千田愛莉  
どの字も明るく、伸びやかで、さわやか。

瀧谷祐輝  
線に弾力があり、はねるような強さあり。

工藤彩乃  
特に名前の書き方がとてもよくて、すばらしい。

下里ゆい  
どの字ものびやかで、りっぱに書けた。

黒田紗恵子  
のびのびと明るく、きもちよく書けた。

高橋理彩  
字のかたちもせんもとてもすばらしい。

前谷元稀  
ほんといっぱいに、ふとくつよく書けた。

奈良一花  
ふとく、大きく、りっぱにかけました。

岡田真奈  
すなおなかきかたで、きもちがいいです。

半紙隨意

評 芦川 臨泉

木下千鶴  
伸びのある線で生き生きと書いている。

館澤 穂  
正しい楷書の筆使いで書き落ち着いた作。

鈴木雄太  
さわやかな線できれいに書けました。

森田陽人  
しっかりしたせんでどうどうとかけた。

このページに掲載された人には書象会より記念の  
筆をさし上げます。

中三 木下千鶴  
**観測筆順**

小二 たがはしりょう  
**むかすむかす**

小六 菊池愛花  
**道徳社会**

中二 ふわり  
**知性と知性と**

小六 錦澤穂  
**進**

小一 ならいあが  
**はるはる**

小一 下里ゆい  
**ら草**

小五 百馨  
**意志**

中一 京佳  
**門出を祝う**

小二 森田陽人  
**足**

小一 おかだまな  
**はるはる**

小一 下里ゆい  
**ら草**

上尾小五郎  
**意志**

今井水晶  
**門出を祝う**

このページに掲載された人には書象会より記念の  
筆をさし上げます。

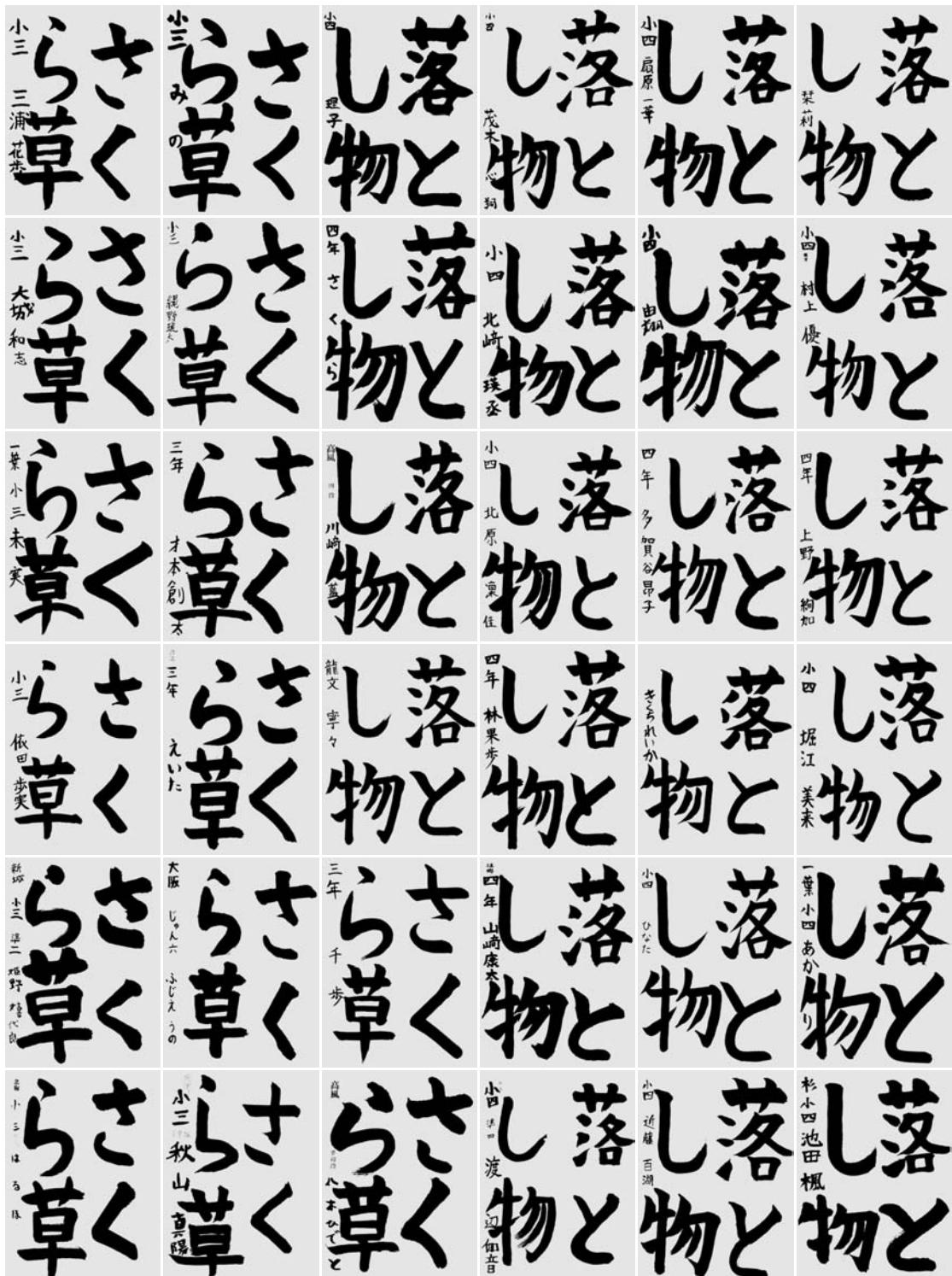


小六 鳥井翠庵 道徳社会	中二 高橋朋石 道徳社会	中三 赤澤香子 門出を祝う	中二 教養 知性と教養	中二 教養 知性と教養
小六 仙台 道徳社会	小六 莉乃 道徳社会	中二 国津つぐみ 門出を祝う	中二 教養 知性と教養	中二 教養 知性と教養
小六 鹿女 道徳社会	小六 葡萄 道徳社会	中一 寺井愛 門出を祝う	中一 教養 知性と教養	中一 教養 知性と教養
六年 美菜 道徳社会	小六 華怜 道徳社会	中一 黒澤凜 門出を祝う	中一 教養 知性と教養	中一 教養 知性と教養
小六 姫 道徳社会	演月 六段 中野結心 道徳社会	中一 吉田慶香 門出を祝う	中一 教養 知性と教養	中二 高瀬友理 教養
小六 夢乃 道徳社会	小六 木村陽菜 道徳社会	中一 山畑愛菜 門出を祝う	中一 教養 知性と教養	中二 力也 教養
小六 香花 道徳社会	小六 桶口葵 道徳社会	中一 江崎涼太 門出を祝う	中一 教養 知性と教養	中三 特待永瀬和歩 教養

毛	中二	藏
高社	美菜	
練馬		
正桂		
乙訓		
瑞祥	若竹	船橋
中野	華雪	この
土筆	秀雪	若竹
練馬	華雪	瑞祥
中野	有虹	中野
綾華	華雪	土筆
硯扇	秀雪	練馬
サン	有虹	綾華
光丘	華雪	硯扇
小六	秀雪	サン
松聲	有虹	光丘
霞墨	華雪	小六
光丘	秀雪	松聲
中野	有虹	霞墨
凛心	華雪	光丘
溪月	秀雪	中野
仙台	富貴	凛心
高社	秀雪	溪月
富貴	若松	仙台
秀雪	若松	高社
若松	一絵	富貴

小五 牧野 意 志 い	小五 山浦 結 愛	大阪一六段 岡本真弥 意 志 い	小五 富岡桜彩 意 志 い	五年 後藤田 直衣 意 志 い	六年 菜理 道 徳 会
五年 六年 六段 中山にこ 意 志 い	五年 六年 六段 佳志力 意 志 い	五年 六年 三上 神澤安那 意 志 い	五年 六年 五 琉羽果 意 志 い	五年 六年 五 美那 意 志 い	小六 薬 道 徳 会
五年 土井 和葉 意 志 い	五年 土井 和葉 意 志 い	五年 田鍋 歩佳 意 志 い	五年 藤木奏 意 志 い	五年 心吸 意 志 い	小六 清香 道 徳 会
小五 平垣 優 意 志 い	伊奈 惣菜 意 志 い	小五 鼓乃 意 志 い	小五 鈴鹿 小五六 駒田優 意 志 い	小五 杏佳 意 志 い	小六 西由乃 道 徳 会
雅志羽 意 志 い	小五 五二段 笠原あかり 意 志 い	五年 滑川莉々子 意 志 い	小五 村上祐人 意 志 い	小五 野澤奏音 意 志 い	小六 高須大知 道 徳 会
小四 九郷桃香 し 落 物 と	小五 春奈 意 志 い	小五 木村莉子 意 志 い	小五 安澤ゆうか 意 志 い	小五 天倉唯花 意 志 い	柱小五岡本優奈 意 強 志 い

平成	みな	華雪	練馬	杉	【小五】
名東	神奈	美那	水代	光丘	倭
道端	後藤真衣	山田ゆな	倉料いさき	黒澤杏佳	【小四】
高須	優奈	山田ゆな	大知	野澤香織	九郷
莉那	岡本優奈	後藤真衣	大知	奏音	桃香
清香	倉料いさき	山田ゆな	大知	唯花	
由乃	黒澤杏佳	大知	大知	桜彩	
茱理	野澤香織	大知	大知	歩佳	
	奏音	大知	大知	田鍋	
	唯花	大知	大知	岡本真弥	
	桜彩	大知	大知	神澤安那	
	歩佳	大知	大知	安澤ゆうか	
	田鍋	大知	大知	村上祐人	
	岡本真弥	大知	大知	駒田優	
	神澤安那	大知	大知	藤木優	
	安澤ゆうか	大知	大知	竹華さわ	
	村上祐人	大知	大知	鈴鹿さわ	
	駒田優	大知	大知	房風	
	藤木優	大知	大知	優生	
	竹華さわ	大知	大知	玄默	
	鈴鹿さわ	大知	大知	若葉	
	房風	大知	大知	優生	
	優生	大知	大知	硯扇	
	玄默	大知	大知	美那	
	若葉	大知	大知	神奈	
	優生	大知	大知	水代	
	硯扇	大知	大知	光丘	
	美那	大知	大知	倭	
	神奈	大知	大知		



三

月華雪	源創霞墨	小澤村上	茉莉優
峰一葉	宝春	この一葉	上野あやか
高風	志摩	横二	美来
霞墨	秀雪	往郷	吉田あかり
柏心	城彩	横二	吉田あかり
新城	葉月	林	由翔
一葉	たけ	多賀谷昂子	由翔
古川	北原	菊池	玲香
大城	渡辺	山崎	玲香
秋山	長谷川理子	山崎	玲香
三浦	堀内さくら	康太	玲香
藤江	眞陽	才木	玲香
寺山	秀斗	繩野	瑛太
眞陽	瑛太	河森	瑛太
卯	実乃	寺山	瑛太
歩実	未実	川崎	藍
はるほ	はるほ	今尾	寧々
		上島	
		千歩	
		竹	
		書之	
		光丘	
		華	
		練馬	
		照澤	
		大阪	
		高峰	
		山愛	
		高風	
		龍文	
		【小三】	

湊	飯田	有虹	華雪	竹華	華華	前原	若松	華	小二
五十川瑠夏	横井	横井	咲彩	玲奈	玲奈	有田	有田	有田	小二
大久保裕希	八木	八木	健登	侑人	侑人	增田	增田	增田	小二
藤村	福田	福田	璃音	篠人	篠人	中川	中川	中川	小二
百合	麗子	麗子	百合	百合	百合	北地	北地	北地	小二
岩立	夕依	夕依	岩立	岩立	岩立	航大	航大	航大	小二
出ロ	隼多	隼多	出ロ	出ロ	出ロ	宇都	宇都	宇都	小二
槌屋	佳利	佳利	槌屋	槌屋	槌屋	正瑛	正瑛	正瑛	小二
市之瀬莉佳	天寧	天寧	市之瀬	市之瀬	市之瀬	福山	福山	福山	小二
宮前	上木	明日香	宮前	宮前	宮前	北	北	北	小二
堀田	空	空	堀田	堀田	堀田	地	地	地	小二
拓士	西澤ましろ	西澤ましろ	拓士	拓士	拓士	宇都	宇都	宇都	小二
宮山	瑞歌	瑞歌	宮山	宮山	宮山	ゆうな	ゆうな	ゆうな	小二
大田	浜野	浜野	大田	大田	大田	なか	なか	なか	小二
中央	碧葉	碧葉	中央	中央	中央	ななか	ななか	ななか	小二
虹友	桐山	桐山	虹友	虹友	虹友	ななか	ななか	ななか	小二
杉月	吉川	吉川	杉月	杉月	杉月	ななか	ななか	ななか	小二
長寿	あかり	あかり	長寿	長寿	長寿	ななか	ななか	ななか	小二
小光	遠山	遠山	小光	小光	小光	ななか	ななか	ななか	小二
花蓮	昊平	昊平	一絵	一絵	一絵	ななか	ななか	ななか	小二
玄樸	吉村	吉村	美二	美二	美二	ななか	ななか	ななか	小二
華雪	榎原	榎原	佐藤	佐藤	佐藤	ななか	ななか	ななか	小二
富士	史帆	史帆	鹿兒島哩	鹿兒島哩	鹿兒島哩	ななか	ななか	ななか	小二

仕事も効率的に行うには、切り捨てるところ、取上げることを、すこやかに判断することだ。  
先生 师 藤田裕子

小川の流れはキラキラと光り、手を浸せは冷たさもやわらいたように感じられる。震星中一四

ピンチはチャンス。失敗は、気付きや学びの機会をあたえてくれる。藤田裕子

春になると、あらゆる生き物たちが新しい歩をふみ出します。

春になると、あらゆる生き物たちが新しい歩をふみ出します。

地域の力を得て、再生を目指す  
吉野の郷・梅香漂う春の訪小  
が待ち遠しい。  
城義文 郡井作  
都南

小川の流れはキラキラと光り、  
手を浸せば冷たさもやわらいだ  
ようを感じられる。雅ハクラー

ピンチはチャンス。失敗は、  
気付きや学びの機会をあ  
たえてくれる。  
高天利(高社翁 六十持ノ御傳)

春になるとあらゆる生き  
物たちが、新しい一步をひ  
み出します。

春になると、あらゆる生き  
物たちが、新しい一步をひ  
み出します。

春になると、あらゆる生き  
物たちが、新しい一步をひ  
み出します。

春になると、あらゆる生き  
物たちが、新しい一步をひ  
み出します。

硬筆

小川の流れはキラキラと光り、手を浸せば冷たさもやわらいた。ようつに感じられる。  
（北府三年特待）  
高野日那

ピンチはチャンス。失敗は、気付きや学びの機会をあたえてくれる。  
（高橋六葉七歳）  
中嶋彩子

ピンチはチャンス。失敗は、気付きや学びの機会をあたえてくれる。  
（高橋六葉三歳）  
光利

春になると、あらゆる生き物たちが新しい一歩を、小み出します。

高社	中野	久喜	霞墨	北府	城彩	光丘
中野	シ一	雅	久喜	北府	城彩	光丘
天利	酒井	中嶋	藤田	高野	古村	富田
心優	文伽	優菴	石井	日那	浜田	裕子
		彩子	ハクラー	羽純	郁	弘美

有穗	有象	成城	書之	正桂	杉	柚木	菅野	遠藤
皓花	華雪	珠悠	木内	白澤	永田	美希	光莉	暁
美菜	山愛	杉	莉理彩	桑原	中本	蒼介	菅野	遠藤
杉月	可兒	柚木	洋一	洋一	高日なな	永田	美希	光莉
おうしろう	白坂	菅野	梓	梓	なな	蒼裕	蒼介	暁
	小一・二	鎌宮	凜	凜	なな	山愛	山愛	有象
		角田菜々子	蒼裕	蒼裕	なな	珠悠	珠悠	有穗
		おうしろう	白坂	白坂	なな	白澤	白澤	皓花

競書成績

□写真版  
☆秀 作  
○昇 級





玄巍上土玄茅石青美硯若靜巍大房榉美若笠玄靜 樸山里曜嶽樸峯雲生 松 山阪風森菜竹原樸翠 研	美小〃〃〃玄長八莖〃水〃靜硯花〃長千長聖〃書富瀬國上檣房樺〃長野 生平 黜翠潮 代 象 野曲野 集貴戸府里森風森
芊小陽花土嶺志瑤竹晨硯昌靜佐玻天素齋檀泰小静 研	晨杠越賴禾光天琇寿翠隆峰君遊硯翠皓秀靜溪花谿谿壺友美壽劍天溥恒惠 夜 窓華山苑紗遙光月紗雪雪子心心花靜華志苑瑤芳祥藍梅仙山翠山翠山靜子
〃〃サ美 ン五五隸書 伊星松茂段 藤野田由 と早真尚	〃飯上書茅墨土南若〃巍硯美靜磯藏若白花信書白志靜御董大飯 田尾 集野心洋曜墨竹 山菜 辺 竹岡象大集岡摩 牧 阪田 完成康花谿正翠千花南憧翠霞小硯秀葉惠冠香翠璧谿玉楊靜豐翠玻 研 古典研究
碩華春瑤暉純溪波仙岳月山泉映心月峰草香扇花虹祥泉舟秀苑紗玉玉	〃御〃若信千妻〃玄水杉神靜花長 牧 竹大曲科 嶽代 龍 象野 貞鐘耕咲梓靜惜芳文峰煌惠秀翠秀
柏梶映入平〃新 游石玄妻磯有〃笠霧静〃新湊桜愛梶四平東草茜 笠東〃雅玄若磯巍若玄高大玄笠〃大游飯麗葉東〃新〃柏飯書 芳友心間成 城四墨峯岳辺象 原訪 城 森心友谷成陽 準原光 心松辺山松樸風象樺原 阪墨島月光 城 心田集	翠洞山紅虹志春葉子雪扇風峰花華
已闌映空明松段 美音湖春井歌百泰新小木和藤百絆東高明山い西角禮清雅珀小葉古衆太小雲白安熊田征仙紅琴三和川室合青谿 根 下 原 上 瀬 倉嶺内田森瀬 瑞杉 田ず 崎 永 田 賀田田林 井 野 中 宅田本賀葉 芳花笙正校永紀 光影葉瑠葉節雅芯立靜日彩皓白里逕景麗敦み沙 雄子雅映舟由艸晨蕙荷真峯め芸珠滿光丈川三健麻佐綾詔翠彩	五
玄東〃六書信玄葉〃静珠玄宝柏中長柏梶書櫻 若雅文〃大游硯靜瀨曉北中書霞書綾野中 磯志春〃大玄〃静有瀬桜源墨中柏書八 黙陽 会之大樸月 悠成春心野翠芳友泉森三宮 化 阪墨 戸月府野泉墨泉華辺勢準 迈摩玖 阪默 象戸森創洋野心集戸	四
上江布ふ梗佐一村林玉半祥裕絲鐘荒成柏鎌碧 段 竹雅節松簾周真赤加畠登藤須桜及久楓桂葉倉京林吉礼長吉夕弘奥岡千悠翰熊工 原田じ 久 石玲井田 井澤崎上 前 田 藤 澤藤山志原藤井川本 谷 珠村 谷澤 原江 田藤 章恵恭枝翠間愛奈麻知苑美舟香殊衛と小空 梅楓舟司玉文理五智子鐘香晨蕙淳玉 蕉節怜珠山川静節子柊邑波華舟谿和	五
櫻中須桿笠新 檜有笠晩大若有靜葉霞〃富高 玄暁有笠 葉瀬正京聖春〃葉半八梶曉北葉 葉大〃長新高柏玄花八玄 森野坂森原城 準森象原華象竹 月墨 初葉華象原月 戸桂都 準二月 田潮友月森月 二月阪 野風城方密若 準三 ☆☆初 ☆☆二 段 真伸美相佐安黒薰藤野賴	☆☆
鎌山富田市神段 降永手喜久柄吉蒲知神秋坂中 段 華八大石白鈴吉樂和碧節ま笛渡武丸吉浅原湯凌啓 段 佐木孝岩里 倉田澤中川林 舟塚久保澤田原子 脇本 千住井木川 す生辺居山田野崎田 佐木孝岩里 栄智孤沙川 宗麗希男田篠美真田代和裕 葉代玄和美敏真明代瑠雨 子芳陽典洋兔洋晩坂翠子子珠香美代完禾花次山	五
こ大杉こ〃大サ須書石大こ 笠大玄游英大 美若長瑞京書小松麗 長長游笠若暁八〃游〃 伊映玄 伊玄八六静若八柏杉 の阪 の4 阪ン坂之峯阪の3原阪巖墨二阪 2菜竹野祥都集平代墨 1野翠野墨原駒月南 墓特 奈心嶺特奈心戸会竹戸芳	五
○○高級落岩丸本翠唐墨清級 山後松青刈房級 大清手名中朝鹿美高級 宮孝中游小真唐落友神級 大上林中望級 黒美江千佐相小羽吉 本中橋 合村子多津尾田 口藤澤木込田 橋水塚 野島智田 島西浦 木合 山島嶋か川月 田佐戸嘉藤原笠田田 綾千流智 良眞い智幸由睦晶 文田翠由湖訓 霽憲患志恵子未子倫 節翠智真祥花暁江子禮 紗聰お珠清 菜子恵子里憧原龍煌	五
倭成宮碩文高城地化風五楷 晴桜美葉小〃魏笠大杉晩 有葉倚珠暁宮乙小サ 笠游〃笠美 小暁藏〃港〃 晴源八桿 大磯暁こサン 段月森菜月平 山原阪 月8象月雲悠月川訓平 7原墨 原菜 6平月 南 月創南森5象辺月の	五
西中牛土生清段書 峰明文憲霧崇游惠子和舟華 峰一子孤波坂春澄陽 贊游聖恭千 星昌子泉瑞端追良恵強 芙美朱葉里貴 峰不藤原本倉山田登田崎 田 戸 野 本 由井條瀬尊中垣文 塚部慎西山 坂勢平爪坂 村野丸屋野兼 雪文憲霧崇游惠子和舟華 峰一子孤波坂春澄陽 贊游聖恭千 星昌子泉瑞端追良恵強 芙美朱葉里貴	五
笠玄〃文若小游〃青八雅儀葉〃 大長茅平硯花宵茜杉秀神玄半美正玄月〃名綾霞〃〃サ〃 四北静美李新中秀桜〃北〃こ〃華〃 原樸化松光墨 雲南 辺月 阪野野成 蓮月 雪龍心田五桂心 東華墨 ン 谷府翠生光城野雪花 府の雪	五
角泉田節弓浅赤馬堀山原酒柴田熊田中小佐木大長吉青井祥真丸齋小一上熊大小服伊星松竹圭吉伊晨幸た佐春宍松高梅染華沖 崎さ村 削野井場越元口井崎中野中西林藤村森山田木上 由山藤林 田切津測部藤野田下 富勢 か々々 戸戸本橋原谷 真雄ら久舟千昇游い好聰佳尚修満珠彰智則信早か俊富響典星美洋百智幸尚夢伸千佑と早眞恵朋慶崎翠江子木木美羌千綾智華紀輝由	五
秀平花杉横産富士雪成苑 段 竹若水練書城〃笠静大葉高〃大松〃秦玄〃有〃 華笠中有柏小新 さ大松船嵐サ和国美〃富汀〃高 雪成苑 二吉士 原城森 松代馬之彩 原 阪月風 象代 野樸 象 雪原野穂心光城 準わ象戸橋山 ン 府容 貴松	五
竹三北鉢田小岩宮林川百小谷鉢鈴岸平白古宮玉林鉢佐波久宮三栗穴永高鈴森齊歌中植合木神段 丸齋柴菊増友大細川俊藍絹中唐 澤田村木島原野川由鍋瀬田遇田木波田日田沢井珠木孝谷保山杉飯原井橋木清木田谷草葉村林 山藤本田井里森野名 本川林 茉篤す蘭盛昭楽萌貴麻白由華礼こ勇真紅和き麻怜敏美濤田友テ原義麗直華石祐円光美詔智桃 桃美祥佳久江淳恒弘瑛月子裕哲真	五
吉成竹一須美平横杉書横〃玄美桜月泰錦柏玄飯杉中華水新北〃八華〃華志元沙大高信華玄倭 新〃〃杉桜〃玄国竹飯 祥城華葉坂二成二月集二 心ニ森 野黃心黙山 勢雪代城府 南 雪南雪モ雪嶽阪羅風大雪模 四城 友 心府華心田	五
八酒伊中富稻夕宮武昌小南横鳥湯増小齊絲塗掘桂木水松向南西落秋安南土山望伸富久佐安芝小 段 重長六根圓柏越木保竹松佐鉢 木井藤里澤葉 澤村山田條山部田子宮藤 谷静村 間野原井澤村合谷部眞屋本月 期末久坐田川 松南波津藤崎川田谷本木本 彩久優吾智芽佳紹知和明成幸坂君子美舟勝子和玉由彩美嘉並奈江賢ひ知惠伊清珠則大間か梨昭 千玉羅浩和と裕し組奈加木納	五
優柏美晏大 名横秀 中書秀瀬一千長横飯美竹珠玄〃皓柏船松東飯八瑞練〃笠大〃 静游 房暁宮〃笠成高〃華小笠 大千笠成 生心ニ墨 野泉雪戸葉曲翠二田二友紅心 花芳橋戸根田南祥馬 原阪 墓 風月地 原城風 雪平原 庫原城 準阪曲原城	五
榎田柏宇林渡末齊鈴美湯須川稲中青大古北刈佐恒若坂林成高金久佐新佐吉山宮齋武蒲赤長櫻林後都小市諷岩門華鹿原上段 武小石桑 本中野留照邊田藤木 本藤口吉里木池矢原込々吉 杉腰愛澤橋子保々保藤田村原藤居原澤竹并幸藤竹浦川訪井脇 島村 居山井田 紀惠瑞賀子琳掠蕙健鐘瑠香水治亮直久花み湖木櫻強義友衛美千多木利華真優桜雅典美み雅観子瑞惠祥沙内保里渙未 純直和幸	五
唯曉桜有右大若若〃竹玄練雅唯游〃〃大有〃玄〃笠汀紅瀬華倭橫汀神サ星横〃〃秀花梶八〃富四秀〃中高横こ 倭玄 准心ニ森象文象竹松 華黙馬 心墨 阪象 横 原楓竹戸雪 二松奈 二 雪象友潮 貴谷雪 野社ニ 機	五
段 古奥美菊塚平古柿仲礼白玉今游岩吉簾後小一南小手植下林斎河佐松内丸根高原今松田横木浅倉竹瀬奥片内翠中深熊多段森 本部原濃池越井賀沼 井澤 井村 藤林 紗林塚村垣梨藤合藤村野子本橋田國本沼倉間野 之名崎山野 島海谷賀 知橋 恵通部光菜里仁有桃山麻力裕真美玉晴枝英由希萌香美絞真友由い和辰彩真奈源健洋子内千と記ま白志光谷	五
優湊大杉 若秀玄杉右長六城美瑞高一麗龍飯珠有華練船珠四晚柏笠成華美星秀中〃北〃 小見八莖源秀〃さ〃 横飯富大蒲鉢八書皓 生阪 二松雪模 文野会彩那祥風絵墨文山紅象雪馬橋悠谷月心原城雪生 雪野 府 扇平戸松創雪 わ 二山士淀田橋戸泉	五
宇樋宗日 段 東兒加長津手松清八服宇関高中西朝大森熊大半藤丸藤酒小南田中烟細森今宮岸小松大肥豊 高鈴山玉道神平江鑑 田口玉黒 岡島藤戸村塚井田ミ部城根田村澤 塚田谷橋田井平山森井暮野村西実田詩井嶋笠田西田泉部柳木崎木喜澤野戸上 川佳栄久 胡雅穗智星惠智貞ス桃利瑠萌茉日和由利峻菜理朱覺祐信華晨光彩佑真音優文澄原湊良来茉紀滿瑞葉美正未茉惠小文	五

柏一柏杉大樟芙蓉中八硯霞小船八 文書「珠」勝一硯ひ若「笠蒲曉北名須千長笠倭瀬龍」飯美「秀中星美硯「柏」玄東皓龍芳葉芳 淀森二月勢潮 墓平橋潮準化泉 悠木絵 ま竹 原田月府東坂曲寿原 戸文 山苑 雪野 范扇 芳 心根花文
☆☆☆☆四段 真根竹片岸碧向酒浦中館小當出齊 越及丸奥田後宗三小小唐猿神周豊姫田安井村長吉清山吉稻宮烏平山上松古黒上柳成那渡小篠岸内川本 井并田川澤林間口藤 谷川口手部藤像谷林山澤田澤吳田川鍋籠向山濱川水水崎岡見下井松田久下屋岩條澤田須瀬倉良涼良精早空美摩恵美舞由月陽実 信翠莉璃恭豈ギ理史愛日朱麻婷芽愛隆由孝由孔真信満杏智千莉優天栄保智綠完和早陽大ゆ尚
文華船乙富玄長富士杉有「凜杉神サ小皓八 水笠若笠勝中玄中秀横若柏四 珠赤優玄富北瀬ひ光石青一竹玄華倭成美杉八愛一化雪橋訓士黙野貴筆月象心 龍ン平花戸初代原竹原木野心野雪ニ宮心谷 悠石生黙士府戸ま丘峯雲絵華嶽雪 城菜 潮心戸葉
☆☆四段 小李渡堀三平宮波山佐近細岩清押平藤山段 柴牛安手山古加田中赤增北高一津宮大梅鈴小安百高唐秀加長川村 高鎌古小鬼野吉野奈迎口原山島多崎々藤目佐野見山井水名 田山部塚崎田藤中西澤原原杉ノ田下鷗津木島藤瀬橋津 藤谷口田豪戸田川林十里浦彩菜歩奈紀加節ひ木節愛夏葦広慶和由部 ま眞文麻晶福真眞美峯東典景瀬恭如隣乃禮夢ちま裕由弥杏川啓智 牧詩節陽加次碧
高名文凜柏「光柏」葉「高一一船大長さ大土右曉桜倭「若李凜」美「小」笠 中柏平曉名竹 大静一葉大高「笠ひ書雅」秀書風特東化心芳 丘芳 月 風路絵橋淀寿わ田筆文月森 松光心 二 平 原 央夫成月東華準版 絵月阪風 原ま之 雪集○2
山級松三鈴中城古羽相吉清北一真中石今村山佐澤稲鎌千村谷原菊立穴羽山大林安阿萩広後大佐段落 安福廣川萩森廣閑森常里小田 本藤木澤田賀田澤原水藤糸壁村川山田藤村垣倉糞美散地川井山中橋能達部原滝藤津藤 合藤藤士中崎原瀬戸戸田川山倭 水久紗亥真大龍ま永弘宗ひ佳喜直里諸琴昌師美美葉二拓加ゆ游笑翔活曉泰千文文彩李 良里楓幸千彩幸花俊輝玲斐浩田
石大備久中 柏千珠若東竹「大」光志書石船富映中サ照月宝「土神士飯」秀書一杉錦「美」「北有華」「笠高大」中文竹須若峯阪後喜央特曲紅糸光華 阪 丘摩之峯橋士心央ん澤 春 筆筆田筆 雪集路月黄 二 府象雪 原風象 野化華坂松○○○○1
鈴妹近間豊級平山未川奥佐福岩文中大咲梅工池山阿衫伴神本半南松井渡所門岸森山柳福谷鍋渡表吉石倉大安加宮稻德古尾湯松池木尾藤庭田 井下 島山藤田崎野村西川崎藤川田部本野崎城田部尾敦邊健間千慶岡澤本脇島部昇田戸嶋和藤藤川田竹田崎瀬本田捷睦ア未真 尚紗沙郁る美訓和未序麻凜哲千琴夏ニ陽奈沙袖元み朋浩愛斗翔秋子理真麻立誠祐我節恵ひ美すこ貞凜華光洋那彩
高華「た」光水東晴「若笠飯山桜虹」華中サ暁宝一李有大城船若「光晴大竹若大華文北」李中杉「一土」宝千和東和「船書大社2雪 け丘代光美 松原田愛森苑 雪央シ月春路光穗田彩橋宮1 丘美阪華竹象雪化府 光野月 路筆 春曲 根 橋集阪○○○○
湯級星長竹湯白大石三佐鈴白紺田吉北今平保唐古鈴吉柳中浜大北級友松田冲小雅阿石寺松園榎小柴佐磯伊門土吉白児今笠工河岡本 雄谷内下鳥場澤沢藤木子谷中川澤井野坂木田木田澤島田城爪 野本辺田林 部田脇島真本林田藤部藤田屋里崎玉惠原藤野本惠 斗川和亞里照卓一真成佑紀孤淳博直夏貴曉響香佑夢咲郁渕む 和直惠信優恵麻織浩海知恵莉曉浩桃千尋めき寛美芽姫土紗
游光「若産倭久石宝」光玄青「杉乙東大中備山中文」華晴遊杉八玄文柏「有東」大大凜高倭若「大倚石玄横富名倚四凜墨丘 宮喜 4仙 丘嶽雲 訓根淀央後愛野化 雪美墨 吉潮化心3芳 穂根 淀手心社 松 阪雲峯心二土東雲谷心○○○○
田須領長中阪川級上水岩須小下石熊藤松大坂柳大高猪中鉢鈴石鳴野大秋安安級寺松圓正藤園上松村海木伏櫪石松今小宇渡関村田万田美村田鍋 島野立田林原川坂本澤熊本武櫻山侯烟木澤田村元部島 永田柳體田道野澤松津下田原毛嶺井野辺根由千幸寿幸成容裕 弥靖明歩礼國友呉厚榮信幹和茂美美友理悠三し直美真 梅佳裕由奈美矣は実七旬研武文ひ薫郁聰穎説莉
平北麗「美八若和石大成奈長中四晏大暁柏皓庵」み游 石美練笠倭四北「杉石八櫛成 み」「杉紅正玄国大奈藏長大一成府墨 菜 7戸松 峯阪城華寿野谷墨井月芳花吉 な墨 6峯那馬原 谷府 峯潮森城5な 竹桂心府手華 寿井路○○○○
羽丸門渡等級西新奥中村豊夏中小宮米永姚小林濱小山土金浦中金百味蜂若野小福大丸中級嶋柳成柿原清今小小伊胡闘羽池安角山倉邊原す暁奈寿 三有尾松泉益須庄八岩前浅佐桐脇安安李降唐長畠上後根大福堀岩級渡南中杉柳須副小齋若篠千三玉岩秦乾杉石宅寶賀崎澤水田永野司代戸田田藤原山藤知幡沢山杉山藤津澤永内住 邊波山浦下田島川藤月原葉輪井田喜聖山慈か峰梢裕恵文千妙詔裕ち里奈公憲幸賀恵仁宗と美智美雅益順則淳ぞ 橙百正香征明瑠晏文千あ文桂ま記代子知
宝榉美新宮玄「美李」中「杉美正国久玄」「北静」新「若志」「磯光華笠産長」「大葉倭游霧虹若「高」華柏珠青六春森二城川黙 生光 野 苑桂府喜嶽 府山 城 松摩 辺丘雪原吉野 阪月 墓訪友竹 風 雪心紅雲会
森百鈴木井南清織幸藤佐み茂宮青小小細中士指代佑吉小今た松弓来鶴閑能古鉢小百萌油熊田田村楨赤丸淹相唐蒼大星華合珠馬布尚瀬木内戸 水戸 原々木入木張林野谷 田 希富林井か下削田飼弘勢屋木林瀬 科野中中石田井山瀬原川 島野 葉 場田美白盛日坂花川晨江鐘木子童杜響真智恒美鳳凰子セ慶嘉秀子永千蕙和子葉葉裕華雅禾ま珠彰満愛晴游皇響董哲風紗華詠詔水い恭
「杉」横樺柏書宮玄八大城書松瑞瀬錦秀玄「葉大長若高玄若大京玄」皓美東大茅「蒲嵐港茜」「サ和錦碩」宮「北宵八秀横二森心集地心南象彩之聲祥戸黄雪心 月阪野竹風樺竹象都黙準花五根淀野 田山南 ン 黄雲 地 府門戸雪二
吉鈴田高湯綵扁牛坪南渋平岸武名石菊甘越鈴柴林寺 佐川清久中頬段岡齋齋武小松染増窓吉節星松友伊大須文中信宍宍長谷秀小田木島橋田 山丸内真谷田波田 黒池中川木崎珠島葉孝田水保野 田藤藤内林本谷井 田 野田里藤森江 野 戸戸山地 田煌蘭盛辰坂舟和で廣知濤真勇ミ琳民錦惠裕修怜ゆ 美か峰壇恵山 み由百秀則佳久泉富舟早眞江と淳錦江真子羌千俊春溪明
杉汀名港サ梶八長雅六志若秀「こ」横「富長美柏勝沙」笠靜硯「大」游「」華高玄水光有「観大江倭有半中美八花産倭玄八楓東南シ友潮翠 会摩松雪 の 二 寿貴二木木羅 原 阪 墓 雪風樺代丘象四扇松阪 象田勢容戸吉 黙南
杉植敦慶平柏鉢大原松倉加井松橋高熊宮濱安柴鳥山田富宮白林赤木吉伸長游染本華小穴柴友井永段明武沖歌丸桂川工北遠小天落村 田山崎池口井谷藤上本爪柳谷澤名 寿部中崎嶇沢日由澤村村 竹 谷間 林原田野井 敏 居真 山 名藤村峰田 和萌子子慶と彩久佳智奏典綱里満光帆千夫雅幸惠晶則き紅貴み早珠珠雅真紀由輝真義礼和麗 美弘由節洋玉弘和す櫻昭性江
文星「中杉書皓玄平東綴柏」横美晏宮「暁三新」華笠麗竹竹飯「四土」こ「横珠若練」美志信若玄高大華八八横 さ文野「化野 泉花黙成根華芳 二二墨地 月池城 雪原墨友華田 谷筆 の 二紅松馬 菜摩大竹樺風象雪潮戸二準化辺
生根中翠圓鏡坂月佑久小成齊柏刈宇都藤阿渓川門森歌高佐理完竹渡ア高清佐古鈴恒谷吉森大山佐真虹中齋華中江赤段丸節梗中長野本嶋 藤上腰 保潤澤藤野込留竹平部 鍋脇清田日々 下辺利橋田藤矢木吉遙田壽橋本次由川本藤 川戸澤 山 本島南麗和志白和小儀性美多千衛蕙博湖賀恵朱遥風麻里石円倫木香頃惠晶江花瑞櫻華真千露伊間美梨裕美恵峯 桶舟淳礼玉
瀬一四長文高玄 新笠小雅玄石大玄瀬曉源 優星美中皓松八和 八「柏秀四新桜美小有」笠大「華笠」静「長大笠」書須小静倭戸路寿化風樺準城原光 嶽峯象樺戸月創 生 生野花戸潮 戸 芳雪谷城森二平象 原阪 雪原 野院 三泉坂平翠
安一圭寿越北高段重山木玉望唐林泉吉後大一宇中金尾山金倉尾小真黒鈴高神碧柏鹿市小上草森齊石武浦手中松上段及富岸伊森藤糸 谷藤橋 松村并月津照さ川藤西ノ田久木谷中子 本崎笠篠岩木杉林 野島林川村 田藤井居原塚西田條 川澤野勢知ちひ朋香信照真 千優智カ清由ら眞瑞良瀬川保久美文千子孝由原良完納景桃空瑞未晴沙美玉由綾和典美恵智司聖 翠智澄崎子

□は写真版（昇級しない）○は昇級（1階級昇級する）☆は秀作（同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。）

□は写真版（昇級しない）○は昇級（1階級昇級する）☆は秀作（同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。）

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

□は写真版（昇級しない）○は昇級（1階級昇級する）☆は秀作（同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。）

高社・紅竹・高風・虹友・この葉・桜木・さざなみ・さわらび・サン・山愛・杉月・シーパス・志摩・秀雪・珠紅・珠怒・小光・城彩・松聲・知床・新城・祥洋

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

□は写真版（昇級しない）○は昇級（1階級昇級する）☆は秀作（同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。）



□は写真版（昇級しない）○は昇級（1階級昇級する）☆は秀作（同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。）

和・若竹・若葉・若松・若宮・その他

主観則の発表です。個人出品は「その他の」として巻末にもあります。

書象会便り

◆第81回謙慎書道会展表彰式・祝賀懇親会 した。

第81回謙慎書道会表彰式・祝賀懇親会が三月二十日(祝ザ・プリンスパークタワー東京)において開催されました。一〇四〇名が出席し、厳粛な式典と楽しい祝賀会の一時を過ごしました。

第55回書家展添削会が去る三月十日(日)に武藏野市民文化会館、三月二十四日(日)に武藏野スイングホールで開催されました。早朝より各支部毎にまとめられた作品について、講師の先生方の丁寧かつ熱心な批評と指導が行わされました。また標記の最終選考会が、三月三十一日(日)に武藏野スイングホールで開催され、出品手続きを完了しました。

◆第35回成田山全国競書大会

標記コンクールに多数応募いただき、活発な競書大会となりました。一月十一日に行われた全国各地区審査、三月十日の中央審査を経て、十五名の中国派遣児童が選出されました。各支部への賞状賞品は四月下旬に発送されます。授賞式は四月二日(火)成田山新勝寺でとり行われました。

四月号P21の「書象会昇格者」の表記に誤りがありました。お詫びし訂正いたします。評議員は無鑑査会員に、無鑑査会員は審査会員にそれぞれ昇格されました。

# 昇段級試験

要項

## 師範昇格試験 特待生試験

### 師範昇格試験

準師範試験 一般部で準五段・五段の者

師範試験 準師範の者  
昇段級試験の一般部規定に同じ

左記の要項にもとづき昇段級試験並びに師範

昇格試験、特待生試験を行います。  
ふるって力作を御出品ください。

### 昇段級試験

#### 出品規定

#### 出品の手続き

- 小・中学生 五月号の毛筆規定
- 一般 五月号の硬筆規定

- 四月号の漢字条幅規定
- 五月号の隸書条幅規定
- 四月号の楷書臨書規定
- 五月号のかな規定
- 五月号の行書臨書規定
- 五月号の硬筆規定

- 1 支部及び個人宛に要項、出品目録、師範・準師範・特待生試験受験名簿、申請書を送ります。
- 2 師範・準師範・特待生試験受験者は名簿に必要事項を記入し、作品にバーコード出品券を必ず貼付の上、共に提出すること。
- 3 返信封筒は不要となりました。

- 4 段級位の認定証は一部三〇〇円です。認定証の要のみ申請書に記入し、「要」の場合は出品料の欄に加算すること。  
(個人で認定証を申込む時は返信切手二二〇円を同封し、返信用封筒は不要)
- 5 師範の認定証は八月号発表後に申し込む。

- 6 為替・振込にての送金は御遠慮下さい。
- 用封筒が千円以下の場合は切手でも結構です。

#### 出品料

#### 出品資格

- 小・中学生で現在準八段の者
- 小・中学生は昇段級試験と同じ

#### 出品規定

#### 級位用

- 小学 生——一点につき 五〇〇円
- 中学 生——一点につき 五〇〇円

出品者あて成績通知をもって発表にかえさせていただきます。  
師範試験及び特待生試験の合格者は八月号誌上に発表の予定。

出 品 先  
〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三一六 上條方

書象会 竹内藍山 あて

### 《書展予告》

#### ☆第14回滋賀書作家協会会員展

会期 四月二十七日(土)～二十九日(月)祝  
会場 大津市歴史博物館2階展示室

出 品 者 武原幽節(本会関係)

#### ☆第7回書象会大阪支部展

会期 四月二十九日(月)祝～三十日(火)  
会場 中之島中央公会堂2階ギャラリー

主 催 藤澤珠玉

#### ☆第20回記念杉並区書道人協会展

会期 五月四日(土)～七日(火)  
会場 セシオン杉並(丸の内線東高円寺徒歩7分)  
出 品 者 杉山暁雲 古賀沙苑 白瀬静苑 杉山窓影  
牧野蘭庭

#### 令和元年度 書象会夏季合宿鍊成会

会場 福島県磐梯熱海温泉ホテル華寺徒歩7分  
会期 令和元年8月31日(土)～9月2日(月)  
二泊三日

定員 200名(6月より受付開始)  
その他 ホテル内に広い鍊成場を提供していただ

きました。

詳細は5月中旬にお知らせします。

#### 研修部

發 行 人	(有) 書象
代 表	上條節夫
東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三一六	
郵便番号 180-0001	電話〇四三(五三)九七四三
振替口座 ○○一九〇一七一五五六九一	
振替名義 (有) 書象	
印 刷 所 株 式 会 社 リンクス	